

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と考察

令和7年11月25日

東御市教育委員会

令和7年4月17日に実施されました全国学力学習調査の東御市小中学校の結果の概要について報告いたします。

☆ 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や、学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

I 児童生徒に対する調査

1 教科に関する調査

教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

①学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。

②「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

2 調査分類・区分

小学校	国語	算数	理科
分類	区分	区分	区分
学習指導 要領の内 容等	<u>知識及び技能</u> ☆言葉の特徴や使い方に関する事項 ☆情報の扱い方に関する事項 ☆我が国の言語文化に関する事項 <u>思考力、判断力、表現力等</u> ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと	☆数と計算 ☆図形 ☆測定 ☆変化と関係 ☆データの活用	<u>A 区分</u> ☆「エネルギー」を柱とする領域 ☆「粒子」を柱とする領域 <u>B 区分</u> ☆「生命」を柱とする領域 ☆「地球」を柱とする領域
評価の観点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現
問題形式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

中学校	国語	数学	理科
	区分	区分	区分
学習指導 要領の領 域等	<u>知識及び技能</u> ☆言葉の特徴や使い方に 関する事項 ☆情報の扱い方に関する 事項 ☆我が国の言語文化に関 する事項 <u>思考力、判断力、表現力 等</u> ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと	☆数と式 ☆図形 ☆関数 ☆データの活用	☆「エネルギー」を柱 とする領域 ☆「粒子」を柱とする 領域 ☆「生命」を柱とする 領域 ☆「地球」を柱とする 領域
評価の観 点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現
問題形式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

Ⅱ 児童生徒を対象にした質問紙調査

1 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

主な調査項目は

- ・基本的生活習慣等
- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・地域や社会に関わる活動の状況等
- ・I C Tを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

Ⅲ 結果

1 概要

○東御市における科目別平均正答率について

- ・小学校は、国語は全国平均よりやや低く、算数は下回ったが、理科はほぼ同等の結果であった。
- ・中学校は、国語、理科は全国平均とほぼ同等で、数学はやや低い結果であった。

2 小学校 教科別考察

(1) 小学校国語

観点別にみると「知識・技能」はほぼ平均と同等である。

漢字の習得では、平均をやや上回る結果であるが、「思考・判断・表現」について課題があった。特に「目的や意図に応じて…集めた材料を分類したり関係づけたり…」 「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付ける…」等の問題で正答率が下がっている。

日頃の学習活動の中で、「目的や意図」を正しく読み取ることや、「分類する」「関係づける」といった思考の仕方、そしてそれを「書いて表現する」といった取組を、低学年の頃から、意図的・継続的に位置づけていきたい。

正答率の分布では、上位層が少ない傾向がある。それぞれの段階の子どもたちを伸ばしていけるような多様な学び方を積極的に模索したい。

(2) 小学校算数

観点別にみると「知識・技能」以上に「思考・判断・表現」に課題があった。特に、分数の加法について説明する問題など、単に計算するのではなく記述式で答える問題で正答率が低くなる傾向があることや、はかりや数直線の問題などからは、単位量の概念の応用に課題のあることもうかがわれた。また、他の問題の誤答を分析すると、問題文の一部分の言葉や数値を取り出して判断し、問われている内容を正しく読み取れていない児童も一定数いることがわかった。

市が独自に行っている学力検査の経年変化と合わせて考えると、母集団の学力は少しずつ伸びてきているが、今後の授業では、「知識・技能」に関わる基礎基本の定着を目指すにとどまらず、日常の生活場面に関連付けて「思考」や「判断」を働かせていくことで、基礎的な基本的な内容を分かり直すような学習や、自分が理解したことを式や言葉で「表現し直す」学習を丁寧に積み重ねさせたい。

正答率の分布では、国語以上に上位層が少ない傾向がみられた。「算数が好き」と答えている児童が少ない傾向もあることから、個に合わせて、より探究的な学びをすすめられるような取組も模索したい。

(3) 小学校理科

観点別にみると「知識・技能」は同等であったが、「思考・判断・表現」にやや課題があった。特に「レタスの種子の発芽条件について、新たな問題を見出し、表現することができるかどうかをみる」「水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる」という2つの「表現」に関わる問題で正答率がやや低かった。このことから、日頃の授業の中では、様々なデータや条件に関連付けて考えることを大切に位置づけるとともに、実験の結果や考察については、一人一人が自分自身の言葉で表現していく取組を重ねさせていきたい。

また、誤答を分析していくと、国語や算数同様に、問題文の一部のみを拾い読みした可能性が高いものが見受けられるので、正しく読み取る態度や技能も合わせて身につけさせたい。

正答率の分布は、ほぼ正規分布に近いので、上記のような取組を、他教科とも連携しながら下学年から積み重ねていきたい。

3 小学校の児童質問紙

○概ね満足でき今後も力を入れていきたい項目

●今後力を入れていきたい項目

- 「自分にはよいところがある」と答える児童が年々増えてきており、「当てはまる」と答えた児童が、全国平均をやや上回った。
- 「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して全国平均より高い。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問への回答も高く、子どもたちの姿を肯定的に受け止め、支援している状況がある。こうした教師の姿勢は今後も大切にしていきたい。
- 「5年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか」では、「ほぼ毎日」との答えが全国平均よりかなり高く、各教室で利用が進んでいることがわかる。
- 「読書が好き」と答えた児童も、全国平均より高い。また、家庭の蔵書数も、全国平均より高く、読書環境が整っていることがわかる。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と答えた児童は昨年度よりも増え、全国平均を超えている。今後も、違いから学ぶことを大切にしていきたい。
- 「学校にいくのが楽しいと思いますか」の質問に多くの子どもがはいと答えている。全国平均とほぼ同等であるが、さらに伸びるよう子どもたちを見守っていく。
- 「朝食を毎日食べている」等、生活リズムに関しては全国平均並みだが、「同じ時間に寝る、起きる」については、年々「している」の割合が下がってきているので、注視していきたい。
- 「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間以上の学習時間が全国平均に比べてやや少ない状況にある。全体的にも、学習時間の減少の傾向が認められたため、より充実した家庭学習のあり方とその支援は検討していきたい。
- 「地域の大人との関わり」については、どの学校でも、地域の方に丁寧に関わっていただいているが、児童自身がより一層「関わってもらった」と実感できるような学習や活動になるように、必要感を伴った学びとして位置づけていきたい。
- I C T機器の使用については、文章作成や情報収集については、全国平均よりも高いが、情報整理やプレゼンテーションの作成ではやや低い傾向があるので、各教科の結果と合わせて、「思考・判断・表現」に視点をあてた、I C T機器の活用を図っていきたい。

4 中学校の教科別考察

(1) 中学校国語

観点別にみると、「知識・技能」は全国平均よりもやや高いものの、「思考・判断・表現」は同等だった。誤答内容を分析すると、単語を読み飛ばしていたり、言葉や図を正確

に読み取れていなかったりする様子があり、示された条件をクリアしながら、自分なりの工夫を表現していく問題においては、指示を適切に受け取ることや、示された文の意図を正しくつかみ取る力に課題が見られた。

ことばの意味を問う問題や、漢字を訂正する問題に関しては、どちらも全国平均より高かった。

正答率は、ほぼ全国の分布に近いので、引き続き基礎的な「習得」の学習も積み重ねながら、問題で例示されているような現実的な場面を、日頃から意図的に位置づけながら、「思考・判断・表現」を総合的に活用していく「協働的な授業」を進めていきたい。

(2) 中学校数学

観点別では、「知識・技能」は平均並みで、全国平均よりも高い問題がいくつも見られることから、「定着を図る」タイプの学習の成果が読み取れる。

その反面、「思考・判断・表現」では全国平均よりやや低く、特に記述式の問題に対して課題がみられる。問題で例示されているような「生徒たちが、総合的・発展的に考えることができる学習場面」を日常的に位置づけていくという視点で、「思考・判断・表現」の力を伸ばしていきたい。

領域では、「関数」が全国平均よりやや低い傾向がある。中学校の「関数」の学習だけでなく、小学校段階での「ともなって変わる量」の学習も、より丁寧に進めていきたい。

正答率の分布は、ほぼ全国の分布に近いが、下位 3 分の 1 と上位 3 分の 1 など山が複数現れ、ばらつきがみられる。「覚え、習熟する学習」にとどまらず、「意味を理解し納得する学習」、そして「それを自分で表現していく学習」へと深めていかれるよう、個々にあわせた支援をしていきたい。

(3) 中学校理科

本年度からオンラインでのテスト（CBT）となった。

具体的に見てみると、国語や数学の観点別と共通して「知識・技能」よりも、「思考・判断・表現」に課題があり、記述式の問題での無答率が高い傾向がみられた。そのため、今後の授業の中では、課題を見出していく活動や、多様な事象を関連付けていく取組について、生徒一人一人が個々に行えるような場面を、より一層大切にしていきたい。

また、「火災における適切な避難行動を問うことで…」や「分解に関する身近な事象を問うことで…」等、日常生活と結びつくような問題に課題がみられた。「知識・技能」が「生きてはたらく」ものになるよう、身近な事象と関連付けた学習の設定を、より一層大切にしていきたい。

5 中学校の生徒質問紙

○概ね満足でき、今後も力を入れていきたい項目 ●今後力を入れていきたい項目

○概ね全国平均と変わらない結果となっている。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の問いにはいと答えた割合がやや高い。生徒たちの前向きな姿勢を大切にしていきたい。

- 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」や、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」が全国平均よりやや高い。職業体験や部活動等を通して、学校と地域が結びついている結果であると思うので、今後も様々な場面で地域の学校としての位置を大切にしていきたい。
- ICT機器の利用について、小学校同様に全国平均よりやや高い。今後も、一層の活用を図りたい。
- 「新聞を読んでいますか」や「読書は好きですか」について、経年変化ではゆるやかな下降傾向がみられるものの、全国平均よりはやや高い水準を保っている。
- 国語の授業に関する設問で「先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」と「…どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」は、全国平均より高くなっている。こうした信頼感が得られるような関わりを今後も継続していきたい。
- 「朝食を毎日食べているか」の質問では、肯定的な回答が昨年度より下がった。就寝時刻は全国並みだが、起床時刻はやや下回っているため、生活のリズムについては、今後注視していきたい。
- タブレットでの学習について、使用頻度は高いのだが、「情報整理」と「プレゼンテーション」については低くなっている。教科の「思考・判断・表現」の力を高めていくためにも、学習の進め方と合わせて活用の仕方の研究を深めたい。
- 「学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいますか」と「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」が、全国平均よりもやや低い。「話し合い活動」や「対話による学び」の一層の充実を図りたい。
- 数学の授業に関わって「数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」「文字式を用いた説明や図形の照明を読んで、かかれていることを理解することができますか」が低い。授業改善の大切な視点としたい。
- 家庭学習が、全体として30分～1時間程度少ない結果がみられる。引き続き、家庭で計画的な学習が進められるよう指導を行っていきたい。